

## ロタイプについての解説 (原 寛)

現行の植物命名国際規約では、学名の適用を定める命名上のタイプについて詳しく規定され、1952年出版の公式版の第3章には第18条から21条にわたって The type method の部があり、更に附録 I としてタイプの定め方がつけられた。1954年パリーの第8回国際植物学会議ではこれに多少の変更があつて、附録 I の一部は規約の本文中にも加えられ一層強化された。

最初にはつきりしておきたい点は、ここにいうタイプはあくまで学名の適用を決定する時の基準になる命名上のタイプ (Nomenclatural type) の事であつて、その学名の示す植物の分類学上の代表的な形とか、或は系統上の母型とか、或は良い標本であるとかいう意味のものではないという事である。

種以下の分類群 (Taxon) では、命名上のタイプは通常 1 個の基準標本 (Type specimen) である。しかし基準標本が無い時やそれが保存できない時には、図や記載がタイプである場合もある。従つてタイプは必ずしも基準標本と同じ意味ではないが、以下の説明ではこの点を一々ことわらずに最も普通の標本の場合について述べる事にした。

現行命名規約に記されているタイプには次の種類がある。

**Holotype** (正基準標本) 原著者 (Original author) によつて原記載 (Original description) に用いられ、又は指定された唯一つの標本である。これを単に Type と呼ぶ事も多い。Holotype が現存する場合には、学名の適用はすべてこの標本に基いて自動的に定められる。

**Isotype** (複基準標本) Holotype の重複標本である。

**Syntype** (等価基準標本) 原著者が 2 個以上の標本を用い、その中から特に Holotype を指定しなかつた場合、或は 2 個以上の標本をタイプと指定した場合には、それらの標本の一つ一つを Syntype という。

**Paratype** (従基準標本) 原記載に引用された Holotype 以外の標本である。

**Lectotype** (選定基準標本) Holotype が指定されなかつたり又は紛失した事が明になつた時には、原記載を書くのに用いられた標本即ち Syntype の中から一標本を Lectotype に指定する事ができ、それが命名上のタイプになる。原著者が 2 個以上の標本をタイプに指定した場合には、その中の一標本が Lectotype として選ばなければならない。

**Neotype** (新基準標本) 原記載に用いられたすべての資料が紛失した場合にだけ、新しく一標本を Neotype に選ぶことができる。

命名規約中にあるのは以上 6 種類である。これ迄よく Cotype という言葉が用いられたが、これは上述の Paratype 又は Syntype 時には Isotype など色々の意味に用いられまぎらわしいので現在は用いられない。この外、Holotype と同一産地で採集された標本を Topotype、又 Paratype の重複標本を Isoparatype、或は雌雄が別の植物では

Holotype と反対の性の標本を Allotype と名付ける事もあるが命名上は余り重要でない。

次に上記の基準標本について少し解説を加えてみる。

原記載に唯 1 個の標本だけが引用されている場合には、原著者がそれをタイプと指定していなくても、その標本は自動的に Holotype と見なされる。Holotype はどんな理由によつても変更する事は許されない。正基準標本は腊葉では原則として 1 枚の標本という事になるが、小形の植物では 2 個体以上が 1 枚の台紙にはつてある事がある。若しその場合に、それらが同一分類群に属さないものの混合である事が分つた時には、その中の原記載に最もよく一致する植物体を Lectotype として指定する。しかしこんな場合でも後でこれらを別々にわける様なことはせず、タイプは原記載が書かれた時のままの状態で永久に保存されるべきである(第 21 条)。小形の下等植物の場合にはこれに似た例が多く、タイプである 1 枚のスライドに多くの異つた植物が交つている場合があるが、この時もそのまま全体をタイプとして保管すべきである。

原記載に 2 枚以上の腊葉が引用され、原著者がその中で特にタイプを指定しなかつた場合にはこれらの腊葉は皆それぞれ Syntype である。後でこの中の一枚がタイプに指定されればその標本が Lectotype になる。

Isotype は樹木などで同一個体から採つた重複品の場合には Holotype 同様の価値があるが、個体が異なる場合には余程注意しないと Isotype と思われたものが Holotype と異つたものであつたため学名の適用を誤り反つて混乱の基となる事さえある。例えば Faurie は同一採集番号の標本を世界各地へ送付しているが、時に同一番号の標本中に異なる植物が交つている事がある。それ故京大にある Faurie の標本中から Isotype を探し出す時には、採集番号が同じであるというだけでなく原記載とも合わせてそれを Isotype と認めてよいかどうか充分注意する事が必要である。

Paratype は Holotype が現存する場合には、学名の適用については全く意味がない。しかし原著者が、記載した分類群をどういふ範囲に扱つたかという原著者の分類学上の見解を知るためには非常に大切である。

原記載でタイプが指定されなかつた場合には、次の様な要領によつて Lectotype を選ぶことができる。Lectotype は原則として原記載に引用された標本即ち Syntype の中から選ばれるが、その際には原記載に最もよく一致する標本を選ぶ事が大切で、その植物について充分な分類学的検討を行つてから選ぶべきである。もし原著者の意向を知る何かの手掛り、例えば原著者の手記や或はラベルへ *typicus*, *genuinus* 等の書き入れがあつた場合には、その標本が原記載に矛盾しない限りそれを Lectotype に選ぶべきである。その植物を分類学的によく研究しないで、ただ引用の最初に記された標本であるとか或はその学名に献名された人の採集した標本であるとかの理由で機械的に Lectotype を選ぶことは非科学的なやり方であつて避けるべきである。化石の場合等は原出典に図解された標本を Lectotype に選ぶべきである。

原記載に2以上の分類群が混合している事が分つた場合に、その中の一つが既に他の学者によつて分けられ命名されてしまつている時は、残つた方のものが原記載と矛盾しない限り Lectotype とみなされる。又その学名が現在広く使用されている慣例があれば、なるべくその慣用を変更しない様に Lectotype を選ぶべきである。

一度ある学者が Lectotype を選んだならば、その標本が原記載に矛盾しない限りは後の学者はその決定に従わなければならない。又学名の適用を論ずる様な時には Lectotype が指定された文献をも引用して正確を期することになつている。

Neotype を選ぶ時には Lectotype を選ぶ時以上に慎重に考慮する事が必要であるのはいうまでもない。

1954年バリーの国際会議で決定した事項は目下編集委員会で字句が考慮されているが、タイプについては「1955年1月1日以後は、現生植物の新しい分類群の学名はその命名上のタイプが示された時にだけ正当な発表と見なされる」という重要な一項が新たに第44条に挿入される事になつた。尙「そのタイプが標本である場合にはそれが永久に保存される場所を示さなければならない」という勧告が付けられている。即ち今後新植物を記載する時には、基準標本を明示すると同時にその永久的保存場所をも示さなければならない。これは今迄基準標本を選定したり、その所在をつきとめるのに多くの分類学者が無駄な時間と労力を費したのを少しでも省こうという趣旨である。

命名上のタイプという考え方はつきりしていなかつた古い時代のものは致し方ないが、今後基準標本は公開されかつよく整理された腊葉室に大切に保管し、何時でも研究者の求めに応じて見られる様にしておくべきである。近年我国でも基準標本の保存の大切な事が認識されて、日本学術会議はこの点について政府に勧告を行い、文部省は先ずその基礎資料として、国内にある基準標本の所在調査を初めているが、古い時代のものの調査はきわめて困難である。しかしまとまつた植物群から基準標本所在リストが印刷される事になり、本年中にはシダ植物と蕨苔植物の部が出版される予定である。

### ○新 敏 夫 ヤクシマキジノヲの新産地 Toshio SHIN: A new locality of *Plagiogyria adnata* (Bl.) Bedd. var. *yakushimensis* (K. Sato) Tagawa.

ヤクシマキジノヲは佐藤幹正氏により屋久島で発見記載されて伊藤洋氏によりタカサゴキジノヲと同一種にされていたものであるが田川基二氏により、タカサゴキジノヲの変種とされたもので現在まで他の産地を聞かない。

今夏(1955年)奄美大島の湯湾岳頂上附近で採集した。生育地で観察するとタカサゴキジノヲが単にいじて矮小になつたものではないと考える。

尙初島住彦氏は大隅半島の高山町、二股岳で採集しておられるので九州本土の南端から、屋久島、奄美大島まで分布していることになる。